

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	くら・らぼ多機能型事業所（重心）		
○保護者評価実施期間	2025年2月1日 ～ 2025年2月22日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	2025年2月1日 ～ 2025年2月22日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種で療育が出来ている	それぞれの専門職から事業所内の勉強会でケアやリハビリの方法、日常生活動作等を共有している。	個別支援計画書や専門的支援実施計画書の目的を、再度しっかりと把握したうえで問題点を共有し、療育に携わるように取り組む。
2	同一法人内に小規模保育所、児童発達支援事業所、放課後等デイサービス、高齢者施設等あり、他児(者)交流が図れる。	世代間交流を大事にしており、各事業所の管理者間でイベント企画している。	頻度を増やしたり、交流の対象を広げたりの工夫は出来ると思う。
3	長期休暇や土曜日には、公園に行って遊具で遊んだり、季節を感じたり、公共施設に出かけたりと、地域に出ていく事を大事にしている。	子ども達の特性を考えて、外出先を検討している。	外出先のバリエーションを増やしていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	多職種であるが故に、専門職への負担が偏ることがある。医療的ケア児が多く来所する日は特に。	児発の利用時間帯と放デイの利用時間帯を、午前午後に分けており、また利用児数のバランスが悪いこともある。	児童発達支援対象の利用児を優先的に募集をするようにしている。
2	療育スペースが十分に広いわけではないので、バギー等の台数が増えると、目一杯動き回るのが難しい。活動が制限される。	屋根付きのテラスや当日に使用していない空間に移動させて、スペースの確保に努めている。	ハード面の改善は難しい部分があるので、適宜工夫をしながらスペースの確保に努めていく。
3	①脱衣所内の環境により入浴の効率が悪い(時間がかかる) ②トイレの便座の高さが児発の利用児の高さに合っていない。	①パーテーションの設置なし、ベッド2台設置するスペースがない。 ②設計の段階でそこまでの配慮がなされていなかった。	①ハード面の改善は難しい部分があるので、可能な範囲での工夫をしていく。 ②足台等の設置により使用しやすいように工夫していく。